

1日目 11月13日(金) 第1会場(2F 橘)

開会式

10:00 - 10:05

一般口演1「病状評価・検査等」

10:05 - 11:35

座長： 加藤 昌昭（総合南東北病院 神経内科）

熱田 直樹（名古屋大学医学部附属病院 神経内科）

01-1 ALS 医療ニーズと地域医療資源調査 ～医療行為・福祉機器に対するニーズに焦点をあてて～
小早川 優子（九州大学大学院医学研究院 神経内科学分野）

01-2 筋萎縮性側索硬化症 (ALS) 患者・家族間の internal conflict 予測尺度の予備的検討
中井 三智子（鈴鹿医療科学大学 看護学部看護学科／三重県 難病医療連絡協議会）

01-3 多発性硬化症および視神経脊髄炎におけるタッチパネル式認知機能検査の有用性
太田 康之（岡山大学大学院 脳神経内科学）

01-4 「特発性正常圧水頭症に対する背景因子の評価」
～ドパミントランスポーターイメージング (Datscan) を用いた検討～
大宮 貴明（鎌ヶ谷総合病院 千葉神経難病医療センター・難病脳内科）

01-5 パーキンソン病患者の看護に対する期待—内服調整・DBS 刺激調整患者の比較—
中妻 久子（東京都立神経病院 脳神経内科）

01-6 筋萎縮性側索硬化症の球麻痺症状に対する舌接触補助床を再考して
高木 幸子（ビハーラ花の里病院 歯科）

01-7 神経難病患者を対象とした短期入院リハビリテーションプログラムにおける医療ネットワークの活用と課題
河野 豊（茨城県立医療大学付属病院 神経内科）

01-8 Charcot-Marie-Tooth 病の遺伝子検査依頼における患者背景と全国分布
橋口 昭大（鹿児島大学 医歯学総合研究科 神経内科・老年病学）

01-9 脊髄性筋萎縮症 (SMA) 発症機序の解明
横倉 隆和（沖縄科学技術大学院大学 神経結合の形成と制御研究ユニット）

ランチョンセミナー 1

12:10 - 12:55

座長： 糸山 泰人（国際医療福祉大学 副学長）

LS1 ALS の病態と治療：コホート研究から得られるもの
祖父江 元（名古屋大学大学院医学系研究科 特任教授）

共催：田辺三菱製薬株式会社

**会長講演「難病新法元年を迎えて
—新たなる難病医療ネットワークの構築と治療法の開発に向けて—」**

13:30 - 13:55

座長： 糸山 泰人（国際医療福祉大学 副学長）
青木 正志（東北大学神経内科／宮城県神経難病医療連携センター）

特別講演「山形県における難病医療ネットワークの取り組みと、災害時における人工呼吸器装着在宅難病患者の搬送システム（KINT システム）の構築」

13:55 - 14:25

座長： 犬塚 貴（岐阜大学大学院医学系研究科 神経内科・老年学分野）
加藤 丈夫（山形大学医学部第三内科）

特別企画「『映画「救いたい」に寄せる想い』」

14:25 - 14:55

座長： 阿部 康二（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学）
川村 隆枝（国立病院機構 仙台医療センター 麻酔科）

教育講演 1「教育委員会企画 ミニシンポジウム【遺伝ケア—各職種の役割と連携—】」

15:00 - 16:30

座長： 挟間 敬憲（大阪府立急性期・総合医療センター神経内科）
有森 直子（新潟大学大学院保健学研究科）

誰でもわかる遺伝医療の基礎知識

上道 知之（公立学校共済組合 近畿中央病院）

疾患の遺伝について心配している患者・家族に対してできること～遺伝カウンセラーの立場から～

田村 智英子（認定遺伝カウンセラー（米国、日本）FMC 東京クリニック 医療情報・遺伝カウンセリング部／
順天堂大学医学部附属順天堂医院 遺伝相談外来）

遺伝看護について～難病医療における看護職の役割～

須坂 洋子（帝京平成大学ヒューマンケア学部看護学科）

難病医療専門員（難病コーディネーター）の立場から

野正 佳余（大阪難病医療情報センター 難病医療専門員・看護師）

1日目 11月13日(金) 第2会場(2F 萩)

一般口演2「療養支援」

10:05 - 11:35

座長：川田 明広（東京都立神経病院）

紀平 為子（関西医療大学保健医療学部）

02-1 非侵襲的人工呼吸器（NIV）を在宅で使用している筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の療養体制構築と継続支援における問題点

平井 健（東京都立神経病院 地域療養支援室／東京都立神経病院 脳神経内科）

02-2 中山間地域の神経内科専門診療所における筋萎縮性側索硬化症患者の在宅療養支援

織田 雅也（微風会三次神経内科クリニック花の里 神経内科／微風会三次神経内科クリニック花の里 難病支援室）

02-3 青森県における神経難病患者受け入れに関するアンケート結果

藤田 香央里（青森県難病医療連絡協議会 青森県立中央病院 医療連携部）

02-4 村上華林堂病院における在宅療養支援体制の実際～病院から在宅療養へ～

原田 幸子（村上華林堂病院 地域連携室）

02-5 独居 ALS 患者の療養支援（第2報）～NPPV から TPPV への移行援助～

山地 節子（医療法人徳洲会 東大阪徳洲会病院 神経内科・看護部）

02-6 神経難病患者の医療過疎地での生活を支える「掘り起こす」ソーシャルワーク

田崎 志保（長崎北病院 地域医療部 医療ソーシャルワーカー）

02-7 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者のレスパイトケア入院導入からの定期利用までの取り組み（第一報）～乗り越えた壁～

坂本 知栄子（(医)拓海会 神経内科クリニック 神経内科）

02-8 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者のレスパイトケア入院導入からの定期利用までの取り組み（第二報）～乗り越えられなかった壁～

藤田 拓司（(医)拓海会 神経内科クリニック 神経内科）

02-9 障害者病棟と療養病棟の一本化は適切か？

- 神経難病医療における障害者病棟の意義と MSW の役割 -

星野 晴彦（美原記念病院 地域医療連携室）

ランチョンセミナー2

12:10 - 12:55

座長：青木 正志（東北大学大学院医学系研究科 神経内科 教授）

LS2 筋型糖原病の診断と治療～ポンペ病を中心に～

西野 一三（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第一部 部長）

共催：ジェンザイム・ジャパン株式会社

1日目 11月13日(金) 第3会場(3F 白檜)

一般口演3「地域ネットワーク・災害・その他」

10:05 - 11:35

座長： 澤田 甚一（大阪難病医療情報センター）

堀田 みゆき（岐阜県難病連絡協議会）

03-1 難病情報・支援ネットワークシステムの構築とその運用状況と課題について

佐藤 洋子（国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター）

03-2 強みを発揮し地域連携！神経筋難病看護研修会を開催して

高木 雅弘（国立病院機構大牟田病院 看護部）

03-3 「えんぼーと」によるレスピ情報共有の試み2015

諏訪園 秀吾（独立行政法人国立病院機構沖縄病院 神経内科）

03-4 難病患者に対する難病情報提供の現状と課題

水島 洋（国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター）

03-5 難病患者登録の在り方に関する検討

水島 洋（国立保健医療科学院 研究情報支援研究センター）

03-6 東京都における在宅人工呼吸器使用者災害時個別支援計画策定に係る推進要因と課題

荒井 紀恵（東京都医学総合研究所 難病ケア看護プロジェクト）

03-7 神経・筋疾患専門病院における感染対策活動の効果

伊藤 敬子（東京都立神経病院 感染制御チーム）

03-8 青森県における膠原病患者の難病医療費助成制度に関するアンケート調査の結果から

永森 志織（日本難病・疾病団体協議会／全国膠原病友の会／難病支援ネット北海道）

03-9 J-RARE - 希少・難治性疾患患者のQOL向上と新薬開発の支援のために

荻島 創一（東北大学東北メディカル・メガバンク機構 バイオクリニカル情報学分野／アスリッド J-RARE 運営事務局）

2日目 11月14日(土) 第1会場(2F 橘)

一般口演4「QOL・就労支援等」

9:30 - 10:30

座長：立石 貴久（飯塚病院 神経内科）

後藤 勝政（国立病院機構 西別府病院 神経内科）

04-1 園芸を用いて、抑うつ改善や活動意欲の向上に効果がみられたパーキンソン病患者の一症例

藤井 美里（横浜旭中央総合病院 リハビリテーションセンター）

04-2 院内と在宅の筋萎縮性側索硬化症患者におけるQOLの比較検討

小羽田 佳子（昭和病院 リハビリテーション部）

04-3 関西地域における膠原病患者の生活実態アンケート調査の結果から

大黒 宏司（日本難病・疾病団体協議会（JPA）／全国膠原病友の会）

04-4 ネットワークによる難病の就労支援

岡部 正子（大阪府特定疾患研究会 堺市難病患者支援センター）

04-5 多系統萎縮症患者への医療保健機関・労働支援機関による就労支援について

戸田 真里（京都府 京都府難病相談・支援センター）

04-6 難病のある人の就労系障害福祉サービス利用に関する調査研究

深津 玲子（国立障害者リハビリテーションセンター 病院 臨床研究開発部）

シンポジウム1「診断から療養までの支援ネットワークづくり」

10:30 - 12:00

座長：今井 尚志（医療法人徳洲会 ALSケアセンター センター長）

中井 三智子（三重県難病医療連絡協議会）

S1 一大学病院の立場から一

杉原 治美（徳島大学病院 患者支援センター 看護師長）

S1 在宅神経難病患者療養支援病院の立場から

菊池 仁志（医療法人財団華林会 村上華林堂病院 理事長）

S1 一保健所の立場から一

宮川 暁子（宮城県栗原保健所 主任主査）

S1 それぞれの生き方～ホームホスピスにできること

今野 まゆみ（ホームホスピスにじいろのいえ 代表）

ランチョンセミナー 3

12:10 - 12:55

座長： 齋藤 博（仙台東脳神経外科病院 神経内科）

LS3 ドパミンアゴニスト貼付剤のメリット

富山 誠彦（青森県立中央病院 神経内科）

共催：大塚製薬株式会社

厚生労働省セッション「新たな難病対策について」

13:00 - 13:20

座長： 吉良 潤一（九州大学大学院医学研究院 脳研 神経内科学 教授）

厚生労働省 健康局難病対策課

教育講演 2「法制化に伴う新たな難病コーディネーターの役割」

13:25 - 14:25

座長： 今井 尚志（医療法人徳洲会 ALS ケアセンター センター長）

法制化に伴う新たな難病コーディネーターの役割

岩木 三保（福岡県難病医療連絡協議会）

意思決定支援にかかわって思うこと

田原 雅子（長崎県難病医療連絡協議会）

閉会式

14:30 - 15:00

2日目 11月14日(土) 第2会場(2F 萩)

一般口演5「告知・メンタルサポート等」

9:30 - 10:30

座長： 割田 仁（東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野）

野正 佳余（大阪難病医療情報センター）

05-1 長期入院生活を余儀なくされた壮年期女性皮膚筋炎患者の疾患との向き合い方の検討

川原 三菜（鹿児島大学医学部歯学部附属病院 7階西病棟）

05-2 多系統萎縮症患者の気管切開術に対する意思決定支援—迷いのある患者への看護師の関わり—

土方 志穂（東京都立神経病院 看護科 神経内科）

05-3 筋萎縮性側索硬化症患者への告知に関する支援者の認識について

新里 恵（独立行政法人国立病院機構沖縄病院 看護部 看護師）

05-4 ALS医療相談室に於ける家族相談員の役割

川上 純子（日本ALS協会 千葉県支部）

05-5 大阪医科大学附属病院難病総合センターの活動について

小野 美鈴（大阪医科大学附属病院 難病総合センター）

05-6 ALS評価尺度と摂食嚥下障害の関連性

村田 尚道（岡山大学病院 スペシャルニーズ歯科センター）

シンポジウム2「痰の吸引—過去・現在・今後の方向性—」

10:30 - 12:00

座長： 中島 孝（独立行政法人国立病院機構新潟病院 副院長）

蛸島 八重子（北海道難病医療ネットワーク連絡協議会）

S2 介護職員等による痰吸引等医療的ケアのための研修事業上の課題

里中 利恵（日本ALS協会 理事・鹿児島県支部事務局長）

S2 吸引問題雑感～たかが吸引・されど吸引から学んだこと～

中山 優季（公財）東京都医学総合研究所 難病ケア看護プロジェクト）

S2 自動吸引システム Now and future

山本 真（大分協和病院）

S2 ゼブラ模様の功罪

深谷 圭孝（NPO法人ICT救助隊）

ランチョンセミナー4

12:10 - 12:55

座長： 亀井 徹正（医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院 総長）

LS4 医療法人徳洲会の理念に基づいたALS診療-徳洲会障害者支援ネットワークの構築に向けて-

今井 尚志（医療法人徳洲会 ALSケアセンター センター長）

共催：医療法人徳洲会

2日目 11月14日(土) 第3会場(3F 白檜)

一般口演6「コミュニケーション支援」

9:30 - 10:30

座長： 成田 有吾（三重大学医学部看護学科）
本間 武蔵（東京都立神経病院）

06-1 ALS等におけるコミュニケーション支援体制構築事業の現状と課題

岡部 宏生（日本ALS協会 副会長）

06-2 筋萎縮性側索硬化症患者における早期拡大代替コミュニケーション訓練の必要性の検討

木村 一喜（村上華林堂病院 リハビリテーション科）

06-3 筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者サポートグループの比較
—コミュニケーション手段の違いから—

柴山 直之（国立病院機構新潟病院 心理療法室）

06-4 ローコスト視線入力装置による意思伝達利用の有用性と課題

伊藤 史人（島根大学 総合理工学研究科）

06-5 仙台市におけるALS等重症難病コミュニケーション支援講座開催の意義と課題

伊藤 道哉（東北大学大学院医学系研究科 医療管理学分野／日本ALS協会 役員）

06-6 意思伝達装置にかかる補装具費支給における地域差要因の背景分析からの多職種連携の提案

井村 保（中部学院大学 看護リハビリテーション学部）

コミュニケーション支援ワークショップ「(コミュニケーションIT機器支援の)予備群へのアプローチと多職種連携」

13:00 - 15:00

座長： 成田 有吾（三重大学医学部看護学科）
井村 保（中部学院大学看護リハビリテーション学部）

神経難病患者に対する早期からのコミュニケーション支援にむけて
～医療者側からの能動的な働きかけの可能性～

長嶋 和明（群馬大学医学部附属病院神経内科 助教）

拡大代替コミュニケーション導入に向けた
診断早期の筋萎縮性側索硬化症患者に対する理学療法士の役割

北野 晃祐（村上華林堂病院リハビリテーション科長）

ALS患者の自律を育むコミュニケーション支援

椿井 富美恵（医療法人徳洲会 ALSケアセンター MSW）

1日目 11月13日(金) ポスター会場1(1F小会議室1)

ポスター1「ネットワーク・患者・データベース等」

16:30 - 17:30

座長： 菊池 仁志（村上華林堂病院）

- P1-1 出産という大仕事を乗り越えて～ ALS 発症後、妊娠した症例に対するリスク管理とアプローチ～
齋藤 百里（吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科）
- P1-2 プリオン病患者の医療連携に関する10年間の試み
林 祐一（岐阜大学大学院医学系研究科 神経内科・老年学分野）
- P1-3 長崎市周辺地域における神経難病患者診療ネットワークの構築へ向けての取り組み
白石 裕一（長崎大学病院 脳神経内科）
- P1-4 筋強直性ジストロフィー患者登録—分業スタイルによる希少疾病患者登録運用—
松村 剛（国立病院機構刀根山病院 神経内科）
- P1-5 情報登録システムを作るために；インターネットを介して発見する患者ニーズについて
中嶋 容子（国立病院機構刀根山病院 神経内科）
- P1-6 筋強直性ジストロフィーにおけるインターネットを利用した患者情報登録に関するアンケート調査
大平 香織（独立行政法人 国立病院機構 青森病院 地域医療連携室）

ポスター2「リハビリ・その他」

16:30 - 17:20

座長： 林 信太郎（東京都立神経病院）

- P2-1 後縦靭帯骨化症患者を対象としたリハビリ実習会の実践報告
五十嵐 林郷（弘前記念病院 リハビリテーション科）
- P2-2 進行に応じた食事設定により経口摂取の継続が可能であった進行性核上麻痺の1例
内田 康介（公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院 神経難病リハビリテーション科）
- P2-3 パーキンソン病患者の睡眠改善への取り組み—パーキンソン体操を実施して—
永尾 恵美加（医療法人社団松涛会 安岡病院 特殊疾患病棟）
- P2-4 進行期の大脳皮質基底核変性症におけるリハビリテーションの検討
～症状が及ぼすリハビリテーション阻害因子～
加藤 俊光（吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科）
- P2-5 当院訪問リハビリテーションの現状と今後の課題
浅川 孝司（医療法人社団 芳英会 吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科）

ポスター 3 「研修会・災害」

16:30 - 17:30

座長： 萩野 美恵子（北里大学医学部附属新世紀医療開発センター）

P3-1 北海道内の身体障害者支援施設の実態調査

南 尚哉（NHO 北海道医療センター 神経内科）

P3-2 地域医療ネットワーク強化に向けた神経筋疾患専門病院における取組み ー訪問看護ステーション連絡会における事例検討を実施してー

白子 千春（東京都立神経病院 医療相談係地域療養支援室）

P3-3 難病新法に関する医療従者研修会の報告

堀田 みゆき（岐阜大学医学部附属病院 医療連携センター 難病医療連絡協議会（看護部））

P3-4 難病療養者の災害時対応における民生委員やケアマネジャーの役割

田中 優司（愛知教育大学 保健センター）

P3-5 難病の災害時における関西広域医療連携 第一報

澤田 甚一（大阪府立急性期・総合医療センター 神経内科／大阪府特定疾患研究会 大阪難病医療情報センター）

P3-6 訪問看護師を対象とした神経難病看護研修の取り組み 第1報

野村 はぎ江（東京都立神経病院 看護科）

1日目 11月13日(金) ポスター会場2(1F小会議室2)

ポスター4「療養支援①」

16:30 - 17:30

座長： 駒井 清暢（国立病院機構医王病院）

P4-1 認知症を伴う筋萎縮性側索硬化症患者のソーシャルワーク支援

中本 富美（医王病院 医療福祉部 地域医療連携室）

P4-2 パーキンソン病と関連疾患における退院支援の検討

高石 亜沙美（一般社団法人藤元メディカルシステム藤元総合病院 医療福祉相談室）

P4-3 パーキンソン病関連疾患の入院患者の在宅療養に向けた問題点について

小仲 邦（大阪大学医学部附属病院 神経内科・脳卒中科）

P4-4 介護支援ボランティア制度を拡張したコーディネート

原田 俊政（特別養護老人ホーム やすらぎ苑 山口大学大学院 経済学研究科 修士2年卒業見込）

P4-5 脳神経系疾患の在宅療養者への拠点病院における取組み

ー地域支援ネットワークと協働した地域システムへの移行（その2）ー

矢野 一枝（東京都立神経病院 医療相談係地域療養支援室）

P4-6 長期療養型病院との協働支援 ー単身ALS患者の入院支援を通してー

山崎 万里子（都立神経病院 医療相談係地域療養支援室）

ポスター5「療養支援②」

16:30 - 17:30

座長： 難波 玲子（神経内科クリニックなんば）

P5-1 岡山県におけるレスパイト入院事業の検討

藪田 智子（岡山県 難病医療連絡協議会）

P5-2 難病患者在宅医療支援事業に対する、当院へ入院した神経・筋難病患者の期待と問題点

隅 寿恵（大阪大学医学部附属病院 神経内科・脳卒中科）

P5-3 重症難病患者の訪問相談事業からー認知症を伴うALS患者と介護者支援ー

小林 友子（山形県難病相談支援センター 山形県）

P5-4 ALS医療ニーズと地域医療資源調査 ～難病医療専門員へのニーズに焦点をあてて～

岩木 三保（福岡県難病医療連絡協議会 福岡県重症神経難病ネットワーク）

P5-5 山形県における在宅重症難病患者の支援体制の構築を目指してー難病医療専門員としてー

菅野 真衣（独立行政法人国立病院機構山形病院 地域医療連携室）

P5-6 ALSの地域連携：地域のニーズに応じた、専門病院による訪問カンファレンスの有用性

山田 恵（岐阜大学大学院医学系研究科 神経内科・老年学分野）

ポスター 6「療養支援③」

16:30 - 17:30

座長： 土井 静樹（国立病院機構北海道医療センター）

P6-1 障害者総合医療療育施設における難病患者利用実態：第二報

竹内 千仙（東京都立北療育医療センター 神経内科）

P6-2 宮城県石巻保健所管内のALS患者の現状と課題

佐藤 史穂（宮城県石巻保健所 疾病対策班）

P6-3 多系統萎縮症患者の訪問診療

伊藤 英樹（(医) 拓海会神経内科クリニック 神経内科）

P6-4 離島（長崎県小値賀町）における難病患者の現状及び患者支援について

平田 真子（小値賀町役場 小値賀町健康管理センター）

**P6-5 当院におけるALS患者への在宅支援、地域・訪問スタッフとの連携
～症例を通して 支援状況の現状～**

登川 誠也（佐賀大学医学部附属病院 先進総合機能回復センター）

P6-6 筋萎縮性側索硬化症患者に対する当院の取り組み

前田 香織（佐賀大学医学部附属病院 先進総合機能回復センター）

1日目 11月13日(金) ポスター会場3(1F小会議室3)

ポスター7「コミュニケーション」

16:30 - 17:20

座長： 中嶋 八十一（国立障害者リハビリテーションセンター）

P7-1 筋萎縮性側索硬化症患者のコンプレッサー使用による発声方法の有用性の検討

太田 夏実（公立八鹿病院 中央リハビリテーション科）

P7-2 在宅侵襲的人工呼吸器装着ALS患者の発声から考える理学療法士の役割

—Blom®スピーチカニューレ使用の適応—

富田 真紀（吉野内科・神経内科医院 リハビリテーション科）

P7-3 岩手病院における神経難病患者に紹介した拡大・代替コミュニケーションの種類の変遷と今後の展望

山川 志野（国立病院機構 花巻病院 作業療法室）

P7-4 自分の声をマイボイス用に保存する場合の録音方法の改善

本間 武蔵（都立神経病院 リハビリテーション科）

P7-5 群馬県難病相談支援センターにおける施設に入所中の筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者へのコミュニケーション支援

川尻 洋美（群馬県 難病相談支援センター）

ポスター8「QOL・介護負担・コミュニケーション」

16:30 - 17:30

座長： 松尾 秀徳（国立病院機構長崎川棚医療センター）

P8-1 多系統萎縮症患者が病いととも生きることへの看護援助

木稻 智子（飯塚病院 看護部）

P8-2 長期療養患者の余暇を考える

松井 理恵（昭和病院 リハビリテーション部）

P8-3 在宅で療養している筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の介護負担

波江野 茂彦（拓海会神経内科クリニック 神経内科）

P8-4 在宅で療養している神経難病患者の介護における主介護者の負担は大きい？

大杉 花（拓海会訪問看護ステーション 訪問看護）

P8-5 筋萎縮性側索硬化症患者の拡大・代替コミュニケーション使用状況の調査研究

東垣 毅（公立八鹿病院 中央リハビリテーション科作業療法室）

P8-6 気管切開下人工呼吸で療養型病床入院中の筋萎縮性側索硬化症患者のコミュニケーション障害に対して多職種で連携し対応した1例

小田 恵美子（微風会ビハーラ花の里病院 看護部）

ポスター 9 「QOL」

16:30 - 17:30

座長： 近藤 清彦（公立八鹿病院）

- P9-1 長期入院療養の神経難病患者に対するレクリエーション外出・活動参加の支援
長岡 英樹（ビハーラ花の里病院 リハビリテーション科）
- P9-2 長期療養入院中の筋萎縮性側索硬化症患者に対する臨床心理士の役割についての一考察
坂井 真志（微風会 三次神経内科クリニック花の里 難病支援室）
- P9-3 神経難病患者に対して抱く看護師の陰性感情の実態
本井 麻里衣（北海道医療センター 4-4 病棟）
- P9-4 多職種連携による離床が長期入院中の筋萎縮性側索硬化症患者へ及ぼす影響
～外出支援が短期在宅につながった事例～
井上 崇（公立八鹿病院 医療技術部中央リハビリテーション科）
- P9-5 意思伝達装置の申請を通してALS患者の自律を育んだ一症例
曾我本 若奈（宇和島徳洲会病院 地域連携室）
- P9-6 タブレットでおいしく安全に
向畑 順子（東京都立神経病院 栄養科）